

## アジメドジョウについて

加 藤 文 男

アジメドジョウ *Cobitis delicata* NIWA は シマドジョウ *C. taenia* に極めて類似している。日本特産で本州の中部、近畿の数河川の上、中流域に生息し生態と共に特異な地理分布を示すので注目されている。大変美味なる魚でアジメドジョウの豊富な大野郡和泉村ではこれを「ゴリ」と称して賞味し、アジメ落しといふ特殊な漁法で獲る。当地がやがて電源開発の為水没することは誠に惜しまるべきである。溪流の魚釣りに魅せられて川を釣り歩く間にアジメドジョウの調査資料も増え、福井県を中心としたアジメの生息の全貌を知ることが出来た。アジメの特異な地理分布の成因はまだ不明であり、全部の生息地が分かつているわけではない。地方変異についてもはなはだ興味深い点を持つており、ここにアジメドジョウの生物地理学的な二、三の問題点についてふれ今後の参考としたい。

福井県のアジメドジョウの分布は「福井県の淡水魚類」(1966)に報告したが、その後の調査も重ねた結果、北は九頭龍川水系から西は河野川を含み更に塩の川水系まで生息しており、耳川以西の河川ではその生息を確認出来なかつた次第である。小浜湾に注ぐ嶺南地方の二大河川南川、北川水系は再度の調査を行なつたがやはり確認出来なかつた。アジメドジョウはふつう生息地には多数いるので極めて容易に確認出来る。調査結果の状況は表1、図1の如くである。

表1 アジメドジョウの生息状況 (1964~1965の調査による、○確認 ×調査したが確認出来ない。)

河 川	主 要 調 査 地	生 息 状 況
1 九頭龍川水系	福 井 県 (※ 滋賀県)	
竹 田 川	丸岡町上竹田	○
"	乗 兼	×
淨 土 寺 川	勝 山 市	○
本 流 上 流	和泉村大谷	○
足 羽 川	池田町常安、河内	○
日 野 川	今 庄 町	○

河 川	主 要 調 査 地	生 息 状 況
宅 良 川	今庄町瀬戸、小倉谷	○
天 王 川	宮崎村熊谷、朝日町糸生、天谷	×
2 三 本 木 川	福井市鮎川、三本木、長原	×
3 大 味 川	殿下村武周、大矢、畠中	×
4 河 野 川	河野村河内	○
5 塙 の 川 水 系		
本 流 上 流	敦賀市駄口、杉箸	○
黒 河 川	〃 雨谷	○
木 芽 川	〃 懶河内、葉原、新保	×
6 耳 川	美浜町松屋、中寺、佐野、新庄	×
7 馬 背 川	美浜町(中上流域)	×
8 落 合 川	〃 ( 〃 )	×
9 北 川 水 系		
本 流 上 流	上中町大杉、※今津町天増川	×
河 内 川	上中町河内	×
松 永 川	小浜市池河内、三番瀬	×
遠 敷 川	小浜市根来、中ノ畑、高野、白石	×
10 佐 分 利 川	大飯町石山	×
11 南 川 水 系		
本 流	小浜市湯岡、中井	×
本 流 上 流	名田庄村三重、口坂本、棚橋、納田終	×
	谷口、奥坂本、大瀧	×
支 流	名田庄村堂本、染ヶ谷、仁吾谷、	×
	虫鹿野、木谷、持田、上田	×
	石 川 県	
1 手 取 川 水 系		
本 流 上 流	白峰村桑島、白峰、市の瀬	×
大 道 谷 川	白峰村堂ヶ森	×
2 大 聖 寺 川	山中町九谷	○

河 川	主 要 調 査 地	生 息 状 況
	京 都 府	
1 由 良 川 水 系 棚 野 川	美 山 町 大 及、田 土	×
	滋 賀 県	
1 安 曼 川 水 系 支 流 2 石 田 川	朽 木 村 木 知 山 今 津 町 角 川	×
3 知 内 川	マ キ ノ 町 路 原	×
4 高 時 川 水 系 本 流 上 流 杉 野 川	余 呉 村 中 河 内 木 之 本 町 杉 野	×

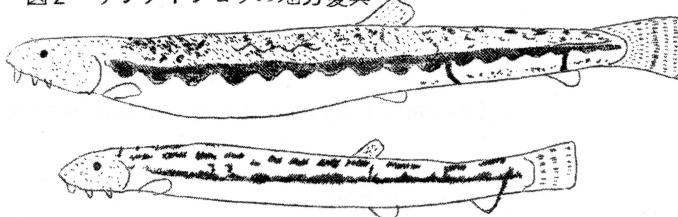
図1は次頁参照

こうして眺めると嶺南地方では塙の川水系までアジメドジョウが見られ、現在のところ本県における分布の西の端になつているように思われるのであり、この点は誠に興味深いことである。なお、嶺南地方の河川と分水嶺をなす琵琶琵琶湖水系の高時川、知内川、石田川、安曼川、更に京都府の由良川では確認されずこれらも注目すべき点である。

ついでに「産する」ことの確証は現地から1匹でも得れば良いのであるが、「産しない」という方はあらゆる調査をした上でないと軽々しくいえないで困難である。筆者が調査して確認出来なかつた河川については今後多数の人の調査を待つわけであり、御検討を戴きたいと思っている。その為にあえて確認出来なかつた河川を記したわけである。

石川県手取川の本流筋では確認出来なかつたが、その支流には生息が予想される。大聖寺川にはアジメが生息し(1964.8.22 採集)、当地の人は「ゴリ」と称して賞味する。前記和泉村の場合と同様で誠に興味深い。大聖寺川は石川県の新生息地としてのべておく。

図2 アジメドジョウの地方変異



上. 浄土寺川産 (裏日本型)  
(大形で尾びれの帶状斑紋  
の列數多く、背面の斑紋分  
散する。)

下. 塙の川水系

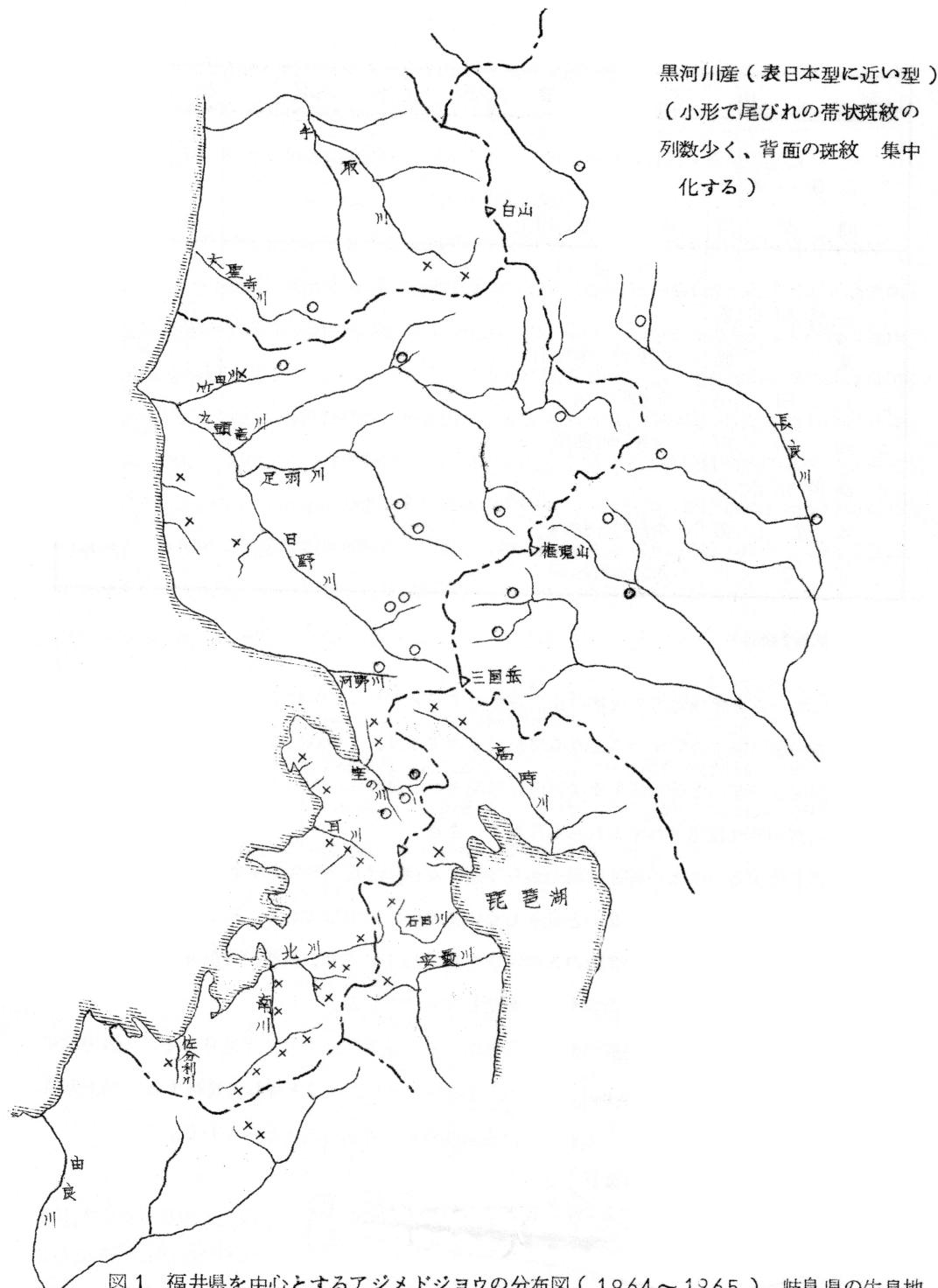


図1 福井県を中心とするアジメドジョウの分布図（1964～1965）、岐阜県の生息地  
 は丹羽（1954）による。

○ 採集地 × 調査したが確認出来なかつた主要地点

次にアジメドジョウの地方変異の問題である。丹羽博士はアジメの体の大きさ、尾びれを横切る帶状斑紋数、体側の斑紋の状態によりこれを表日本型と裏日本型に分けた(1954)。その分布の境界線は乗鞍岳から大日岳をへて三国岳に至る県境の中央分水嶺であり、福井県のように日本海に注ぐ河川では裏日本型が見られるようである。

石川県大聖寺川のアジメは、大形で尾びれの帶状斑紋が多くまさしく裏日本型に一致する。今本県のアジメを見ると九頭龍川水系の本流上流(和泉村大谷)、浄土寺川(勝山市)、足羽川(常安、河内)、宅良川(瀬戸)、日野川(今庄)、竹田川(上竹田)のものが裏日本型を示していることが分かる(図2の上)。ところが同じ福井県の河川でも河野川、笙の川水系へ来るとアジメの体が小形になり、体側の斑紋が集中化し、尾びれの帶状斑紋が少くなつて表日本型に近い型を示して来ることが分つた(図2の下)。特に笙の川水系のものにおいてその傾向が著しい。裏日本型のアジメが生息すると考えられる河川に、かような表日本型に近い型のアジメを見ることは誠に興味深い現象といわなければならない。アジメドジョウの地方変異の問題もここに再び全体的に眺める必要性が生じたわけである。これには今後更に全国各地のアジメドジョウを採集する必要があるのである。

#### 文 献

- 1 中村守純著 原色淡水漁類検索図鑑 北陸館 1963
- 2 丹羽彌著 木曾谷の魚 木曾教育会 1954
- 3 五十嵐清 加藤文男 福井県の淡水魚類 福井県教育研究会理科部会 1966  
(1967.3.30 県立丹生高等学校)